

3. 長寿命化修繕計画の基本方針

《維持管理手法》

従来の事後的な維持管理から、予防保全的な維持管理へ転換することにより、修繕や架替えのコストを抑えます。

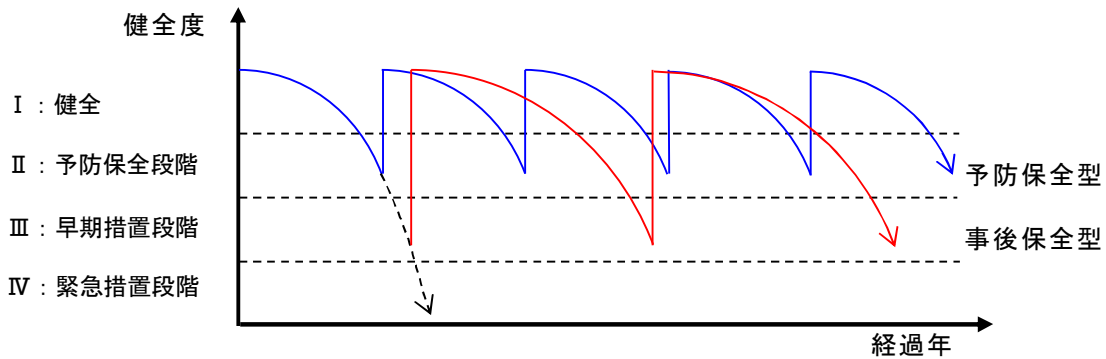


図3 維持管理のイメージ

「予防保全型」とは、危険な状態に至る前の段階で修繕を実施し、基本的には架替えをせずに管理を行うものです。

「事後保全型」とは、具体的な危険性が確認された段階で橋梁の架替えを行うものです。ただし、安全性を確保するための必要最低限の修繕は行います。

《橋梁維持管理の体系》

- ①定期点検を実施します。
- ②点検結果を基に橋梁の損傷程度の診断を行います。
- ③点検結果に基づき、長寿命化修繕計画を更新します。
- ④修繕計画に基づく対策を実施します。

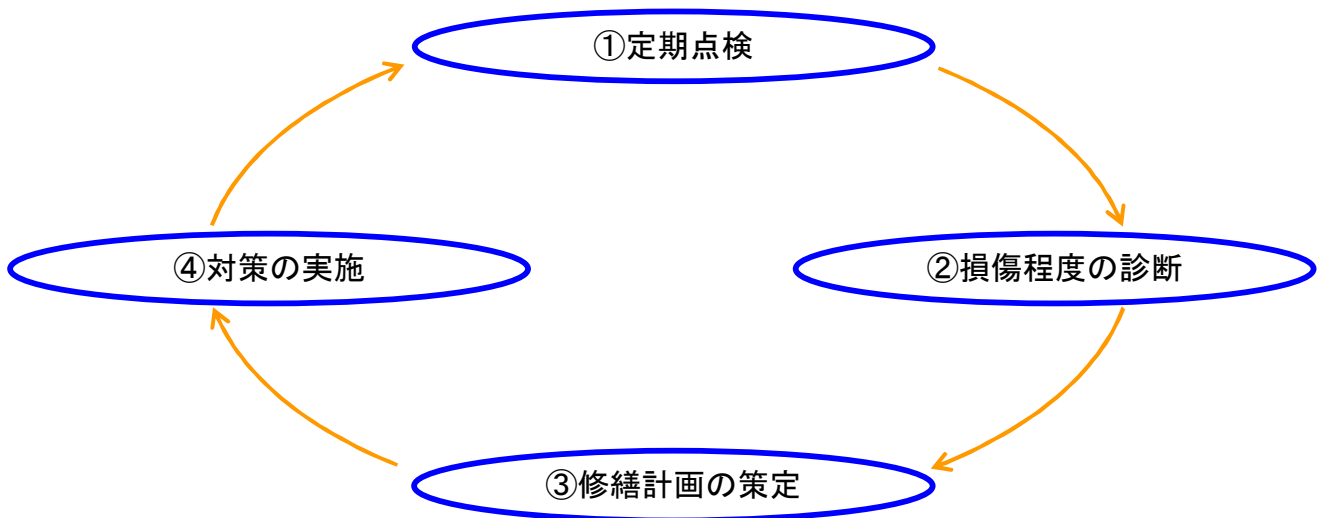


図4 橋梁維持管理の体系